

日刊 建設工業新聞 2007.8.30

本年度施工高40億円に

機器のネット販売も順調

空調組合
冷凍協同
東京事業

00人の作業員を動員する場面もあるという。



沖原理事長

し、組合員に利益を公平に還元している。

沖原理事長は「急激に仕事量が増えても、滞りなくこなしているところは、特筆に値すると思う。以前は技術力、専門性、機動力を売りしてきたが、

同組合は、空調・冷凍設備工事、フロンガス回収の共同受注などを目指し、00年6月に設立された。発足から3年ほどを

かけて、建設業法に基づく管工事業・電気工事業許可、第一種フロン回収業者認定、官公需適格組合認可などを取得。民間工事に対する営業活動や、国、地方自治体への

入札参加資格審査申請など公共工事受注環境の整備を進めた結果、施工高が年平均2〜3倍のペースで伸び続けた。

受注する工事は、10万円の小さな工事から10億円以上の大規模工事までさまざま。特に大規模工事では組合員全13社がそれぞれの規模、施工能力にあわせて工区を担当

東京冷凍空調事業協同組合(沖原正宣理事長)の07年度施工高が、前年度の3・5〜4倍の40億円に達する見込みだ。組合員の中には一致団結して取り組むことで、共同受注した工事には一致団結して参画し、1日に最大10

初計画通り1億円を計上。今期は倍の2億円が確実に視されている。